

坂城大橋



坂城大橋 右岸駐車エリアの公園から

千曲川で東西に二分される坂城町。両地域の交流に長い間貢献してきたのが、コンクリートローゼ橋の昭和橋です。坂城大橋はこの昭和橋を補完するために昭和62年に建設されました。先代の木橋はなく、最初から永久橋として架設されたことから、管内の千曲川に架かる橋の中で最も新しい名前です。

千曲川に架かる坂城町の5橋梁付近の河畔では、春から夏にかけてつけば漁を行う小屋が営まれ、アユ釣りにも大勢の愛好家が訪れます。大望橋東側のさかき千曲川バラ公園では、毎年バラ祭りが盛況。千曲川と橋が織りなす景観に彩を添えています。

当所が管理する7橋梁を紹介するシリーズ、第5回は、坂城大橋と町管理の橋も紹介します。

1 橋梁データ

路線名 (場所)	一般県道 上室賀坂城停車場線 (左岸 坂城町上五明、右岸 坂城町坂城)
完成年月	昭和62年(1987年)11月
橋長・幅員	675.0m・12.0m
構造	P C箱型断面9径間連続有鉸(有ヒンジ) Tラーメン1連 4径間連続鉄筋コンクリート中空床版2連 P C中空床版1連

2 昭和橋と坂城大橋



坂城大橋から見た昭和橋(右岸が国道18号)

坂城大橋について記述する前に、下流に架かる昭和橋を紹介します。

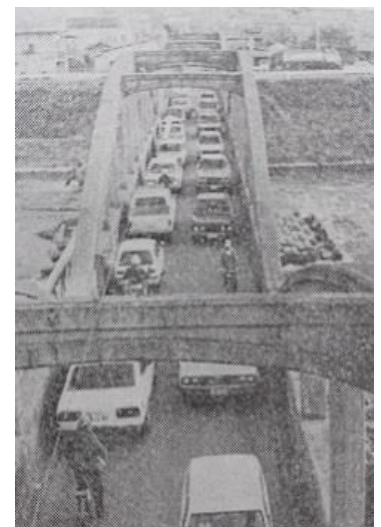
最初の昭和橋の完成は、坂城大橋架設の59年前。昭和3年(1928年)に完成した幅3.6mの馬車も通れる木橋で、現在の昭和橋より約200m上流でした。昭和12年(1937年)、現在の位置の右岸側から鉄筋コンクリートローゼ橋[※](3連)が建設され、左岸側は未だ木橋でした。(※橋桁とアーチ部分が一体化している橋)

昭和27年(1952年)に6連が追加となり、最後の2連が完成して対岸まで永久橋になったのは昭和39年(1964年)。橋長は460m、最初の工事が始まって2年、県道になってから17年の年月を要しました。

昭和橋は平成14年(2002年)11月社団法人(現 公益社団法人)土木学会から土木学会選奨土木遺産に認定されました。今でも9連のアーチが作る美しい景観は坂城を訪れる人々に強い印象を与えています。

昭和30年代、自動車の普及と産業の発展により交通量が増加。昭和橋は渋滞が慢性化し、交通のネックとなったため、新たな橋の建設が求められるようになりました。昭和49年(1974年)県は昭和橋から約500m

(大字坂城側)上流に坂城大橋の工事に着手。昭和62年(1987年)11月に完成しました。完成後坂城大橋は県道上室賀坂城停車場線となり、



昭和橋の渋滞状況(昭和30年代)
(坂城町誌 第三篇歴史編(近・現代))



左岸からの坂城大橋。右上に見える橋脚は上信越自動車道

今まで県道であった昭和橋のルートは再び町道に移管されました。

坂城大橋は大橋の名にふさわしく、管内で最長です。長さ 675m で左岸上五明側の取付道路 357.5m を加えると優に 1,000m を超えます。

昭和 62 年の渡り初め前日、早く東西の懸け橋を渡りたい坂城町民の強い願望で、小学生駅伝大会が計画されました。元坂城町長の近藤甲善氏（故人）は、「懸命に走る児童と教師、父兄で橋上は身動きできないくらいの人出となり、小さな子供達には大橋を一番で渡った強い印象を与え、生涯の思い出となるだろう。」と当時を回想しています。（「長野県更埴建設事務所記念誌 1995」への寄稿）

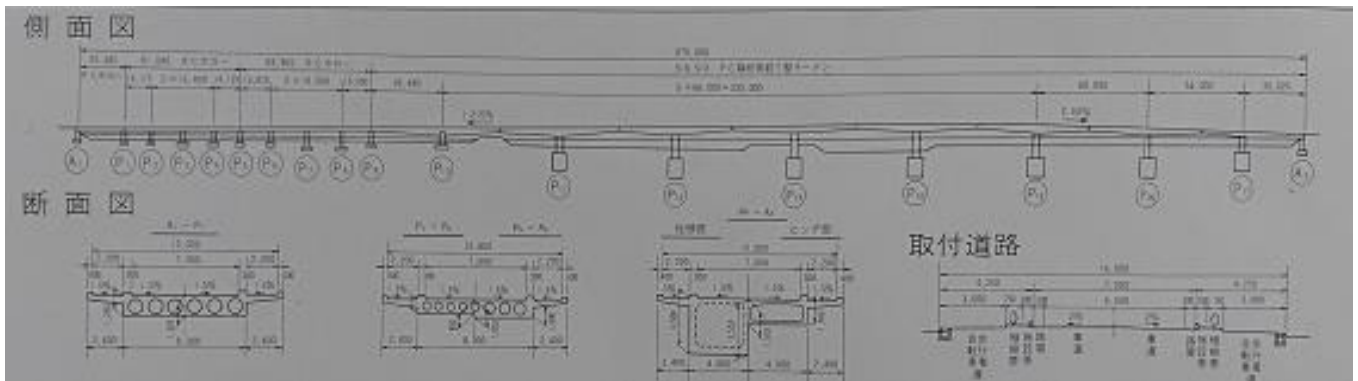
坂城大橋左岸の一般県道上室賀坂城停線の交通量は 1 日 5,385 台。（H27 交通量 24 時間）。幹線道路として坂城町と地域の発展を支えています。

3 坂城大橋の工法

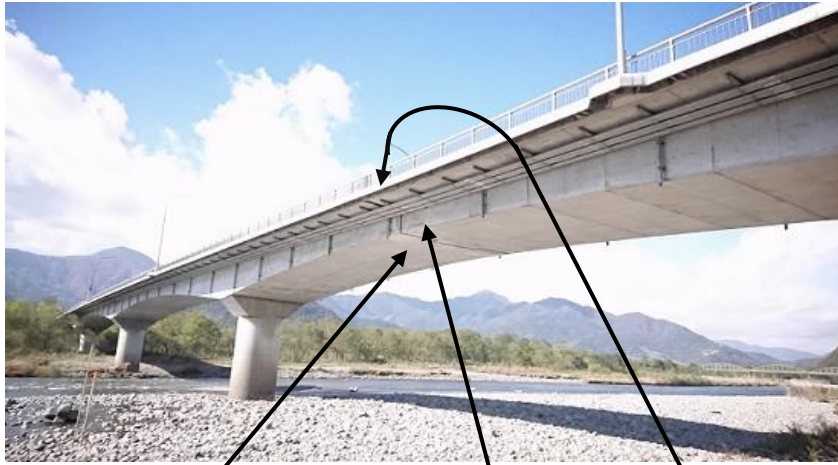


ディビダーク式カンチレバー工法で建設中の坂城大橋（昭和 60 年）「坂城町合併 50 周年記念写真で見る 20 世紀の坂城町」

坂城大橋は、橋長 675m、径間（橋脚の間）数が 18 と当所が管理する橋で最長です。施工方法は、本川部は洪水時でも施工が可能なディビダーク式カンチレバー工法（張出し架設方法）が採用されました。これは、ドイツディビダーク社が考案したもので、橋脚の柱頭部から両側にワーゲン（移動式作業車）を用いて「やじろべえ」のように橋桁を伸ばしていく工法です。この工法は、橋桁の下に支保工や足場が不要で当時は珍しいとされたもの。シリーズその 4 で紹介した大正橋（千曲市）でも採用されました。



上部工の構造の特徴は、主要な 9 つの橋脚（P 9 ～ A 2 の間）の柱頭部から左右に伸びて、隣接する橋桁との連結部分に水平方向に動くヒンジを設置していることです。



①は橋桁の下から見た結合部分。結合部分の内部にあるヒンジ②が左右の橋桁を繋ぐ。③は結合部分の橋面にある伸縮装置。歩道にも歩道用の伸縮装置が設置されている。

4 町管理の橋

坂城町には県管理の坂城大橋、笄橋（シリーズその2で紹介）の他に町管理の3本の橋があります。それぞれに特徴と歴史があり、地域の交流に貢献し町の顔にもなっています。

	場所・規模	設置年	特徴等
昭和橋	左岸：上五明 右岸：坂城 長さ 466.0m 幅員 4.5m	昭和3年(1928)木橋。 昭和12年(1937)鉄筋コンクリートローゼ橋3連。 昭和27年(1952)6連追加。 昭和39年(1964)2連追加対岸まで永久橋となる。	<ul style="list-style-type: none"> 昭和22年(1949)県道編入、坂城大橋竣工で再び町道へ移管。 平成14年(2002)土木学会選奨土木遺産に認定。
大望橋	左岸：網掛 右岸：中之条 長さ 456.5m 幅員 2.5m	昭和39年(1964)部分的に架設。 平成4年(1992)全面架設。 	<ul style="list-style-type: none"> 坂城町と村上村の合併(昭和35年)を機に、村上の中学生の通学橋として建設された。通学・帰宅時間帯は自動車の通行が制限されている。 右岸はさかき千曲川バラ公園に接続。黄色のワーレントラスが映える。
鼠橋	左岸：南条(小網) 右岸：南条 長さ 386.0m 幅員 8.75m	明治27年(1894)木橋。 大正15年(1926)吊り橋。 昭和30年(1955)架け替え。 昭和59年(1984)現橋の一部建設。 昭和63年(1988)全通。	<ul style="list-style-type: none"> 町の最上流に架かる。4径間連続鋼板桁橋。 

5 橋めぐり。自転車で、ウォーキングで。

千曲川左岸を通る上田千曲長野自転車道では、今回紹介した坂城町の橋を全て見ることができます。千曲市上山田の女沢公園から、上流に向けて笄橋、昭和橋の脇、坂城大橋の下を潜って、大望橋、鼠橋の脇へ、主要地方道長野上田線と並行したらそこはもう上田市です。上田市境まで約8 km。途中、個性ある橋が迎えてくれます。気になった橋があれば渡ってみてください



桜コース（坂城大橋）の清掃活動



右岸（坂城）北側の親柱



千曲川左岸を通る千曲サイクリングロード
（上田千曲長野自転車道）坂城大橋上から

坂城町では、さかき千曲川バラ公園発着で「千曲川ウォーキングコース」を設定しています。コースは県が進める健康づくり運動「信州エースプロジェクト」に登録。6.6 kmの「あかしやコース」と4 kmの「桜コース」の2コースで、どちらのコースも橋を2つ渡ります。千曲川と橋梁が作る景観やばら公園の花々を楽しみながらのウォーキングで心身のリフレッシュを。近隣事業所や坂城町役場、県では、コースを気持ちよく歩いてもらえるよう、ウォーキングコースの清掃活動を行っています。

温泉サイクリング 千曲川サイクリングロードのマップは
千曲建設事務所ホームページからダウンロードできます。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/chikuken/koho/ko-susyukai.html>



■ 次回は平和橋です。（掲載してある白黒写真の転載は禁止します）